

決算特別委員会県内調査報告書

平成29年10月24日（火）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 相模ダム、子ども自立生活支援センター
- (2) 出席委員 高橋(栄)委員長、青山、渡辺(ひ)の両副委員長、おざわ、武田、田村、川崎、市川、瀬戸、渡辺(紀)、長田、国松、しきだ、桐生、小川、持田、竹内、堀江、京島、石川(裕)、赤野、岸部、てらさき、近藤、曾我部、はかりや、西村、佐々木(正)、藤井(深)、高橋(延)、楠、木佐木、藤井(克)、佐々木(ゆ)の各委員
- (3) 調査日 平成29年10月24日(火)

2 相模ダム

(1) 調査目的

相模ダムは、我が国最初の河川の総合開発事業である相模川河水統制事業の基幹施設として、ダムの貯留水を利用した水力発電と、水道事業者への水道用原水の供給を目的に、昭和15年から県の電気事業で建設を開始し、戦中、戦後を経て昭和22年に完成した、重力式コンクリートダムである。

ただ、相模ダムの洪水吐ゲートは設置以来70年が経過し、設備の漏水や塗装の劣化が著しいため漏水が生じ、このまま放置すると漏水量が増加するなど、ダムの貯水機能の維持に大きな支障が生じることから、老朽化した設備の交換・補修を目的として、平成28、29年度の2箇年で本改修工事を行った。

そこで、当該事業の整備状況を現地調査により確認することで、「認第1号平成28年度神奈川県公営企業決算の認定について」の審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア ダムの仕様

型式	重力式コンクリートダム
堤高	58.4m
堤頂長	196.0m
湛水面積	3.26km ²
総貯水容量	63,200,000m ³
有効貯水容量	発電 43,200,000m ³ 水道 48,200,000m ³
常時満水位	標高 167m
完成年月	昭和22年6月

イ 工事等の概要

(ア) 工事名

相模ダム3号洪水吐ゲート修理工事

(イ) 工事箇所

相模原市緑区与瀬地内 他

(ウ) 工期

平成28年10月4日～平成29年7月31日

(エ) 対象施設

相模ダム3号洪水吐きゲート

- ・型式：鋼製ストローニー式ローラーゲート
- ・扉幅：12.79m
- ・扉高：9.3m

(オ) 工事概要

- ・底部及び側部水密ゴムの交換
- ・老朽化したワイヤーロープ・シーブ（滑車）の交換
- ・仮締切水門の設置・撤去

ダムの貯水位を下げずに水密ゴムの取替えを行うため、平成27年度に製作、平成28年度に設置し工事を実施

(カ) 工事費

(単位：千円)

年度	工事名	予算額	決算額	備考
26	仮締切水門設計委託	9,844	9,504	
27	仮締切水門製作	153,825	138,413	
	水門修理設計委託	12,140	11,880	
28	相模ダム3号洪水	137,388	129,210	仮締切設置・補修工事
29	吐ゲート修理工事	127,189	*127,189	仮締切撤去
計	全体工事費	440,386	*416,196	

*平成29年度未決算のため、予算額を記載

(3) 主な質疑応答

質 疑 いろいろ部品を換えるが、一番心配なのはダム本体の劣化であるが大丈夫か。

応 答 今回工事のゲートを支えている水密部分などが劣化した部分や、戦中などダム工事が一時中断した時期に当たる部分などに不安はあるが、全体としては大丈夫である。

質 疑 今回改修は3号だけであるが、なぜ3号だけ水漏れをしたのか。またこの後他ゲートの改修予定はあるか。

応 答 3号ゲートの劣化が激しい理由は、ここが真ん中でまず最初に開けるため一番開く回数が多く、また閉めるのも最後になるため漏れたと思われる。他のゲートに漏れなどはなく順次改修する予定はないが、今後漏れなどがあれば対応したいと考えている。

なお、今回の改修は3号ゲートだけだが、今後ゲートピアの更新を平成36年度以降に予定しており、現在仕様など検討中である。



(ドローンによる空撮からの状況確認)



(*) ダム視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

相模ダム洪水吐ゲートの改修工事の状況を現地調査することにより、決算特別委員会における議案審査の参考に資することができた。

3 子ども自立生活支援センター

(1) 調査目的

虐待の影響などから様々な課題を抱えた情緒障害、発達障害や知的障害のある子供に対し、乳幼児期、学童期から成人期に至るまで総合的な支援体制を構築するため、心理・医療等の専門的ケアができる入所機能を持った子ども自立支援センターの新築工事を行った。

そこで、当該事業の整備状況を現地調査により確認することで、「認第2号平成28年度神奈川県一般会計歳入歳出決算及び同年度神奈川県特別会計歳入歳出決算の認定について」の審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 沿革

- ・平成29年3月1日－「神奈川県立の児童福祉施設に関する条例」の一部改正により、「乳児院」、「障害児入所施設」及び「児童心理治療施設」を有する「子ども自立生活支援センター」が設置され、管理課、医務課のほか、支援部に自立支援課、子ども第一から第三課の4課が置かれる。
- ・平成29年4月1日－設置から開所に向けた手続等を行い、「児童福祉法第24条の2第1項」の規定による指定障害児入所施設の指定を受け、子ども自立生活支援センターを本格開所した。

イ 工事等の概要

(ア) 工事場所

平塚市片岡999-1（県立五領ヶ台高校跡地）

(イ) 敷地面積

20,360㎡

(ウ) 構造及び規模

棟	構造	面積(㎡)	施設等の内容
西棟	R C造	2,167.92	児童心理治療施設（定員42名）
中央棟	地上3階建	3,231.27	管理部門、医務課等
東棟		2,582.68	障害児入所施設（定員42名）
南棟	R C造 平家建	546.25	乳児院（定員12名）
体育棟	R C造一部S造 地上2階建	558.52	
その他		125.29	プール棟、体育倉庫棟、渡り廊下
合計		9,211.93	

(エ) 建設費総額

(単位：円)

年度	区分	予算額 (繰越予算額)	決算額	残額 (繰越額)
27	公共	143,700,000	127,446,324	676 (16,253,000)
	県単	335,300,000	297,374,757	1,243 (37,924,000)
28	公共	1,223,200,000 (16,253,000)	1,233,998,210	5,454,790
	県単	2,854,800,000 (37,924,000)	2,879,329,163	13,394,837
合計		4,557,000,000	4,538,148,454	18,851,546

(注) この事業は2箇年継続事業(平成27~28年度)であり、平成27年度の繰越額は、54,177,000円

(3) 主な質疑応答

質 疑 三つの施設を統合した施設を造るに当たり、施設面で工夫された面や複合施設としての特徴は何か。

応 答 複合施設の中に医療面が必要な部分があり、児童心理治療施設の入所者は通常の学校に通えないので、施設内に小中学校の分校を設置している。

質 疑 現在は開所して間もないため61人であるが、定員の96人を超過した場合どう対処するのか。職員も追加されるのか。

応 答 基本的には定員内での運営を考えている。また、このような児童福祉施設は県内各地に複数あるので、そこと連携して役割分担の中で子供を受け入れていきたい。現状では定員を超えることはないと考えているが、今後定員が超過しそうな場合は、本課と相談し対応を考える。

質 疑 厳しい環境におかれた子供たちが、いかに地域の方に見守られて安心して成長することが大事で、この施設を受け入れてくれた地域の皆さんに感謝すべきことだが、今後も入所者が融和をして見守っていただくことが大事だと思う。今後地域の方と付き合い合っていくのに、どのような工夫をするのか聞かせてほしい。

応 答 施設運営に当たっては、設置周辺地域の皆様の御理解をいただき支えてもらって運営することが大事と考えており、地域に根差した施設づくりを目標の一つと捉えている。その取組として、地域との交流として、設置以降こちらから地域の自治会にお邪魔して施設の状況を説明したり、併せて地域の様々な行事

の情報を頂き、こちらの子供たちを地域のお祭りに参加させていただくなどして交流したり、地域の学校にも通っているので協力を得ている。

また、地域に受け入れていただくことを念頭に置きつつ、地域にどのような貢献ができるかということで、施設機能の一つに研修・研究機能があり、これまでも研修講座を実施するなどして地域の皆様に専門的なことを学んでいただく講座をさせていただいたり、障害者の短期入所事業を実施する中で、在宅で御苦労されている御家族の方の少しでも支えになるような事業を展開している。ちなみにこの事業は以前のひばりが丘学園から引き続き利用されている方が30名ほどいたが、ここに移ってから同数の方が新たに利用いただくなど、かなりニーズがあると捉えており、ニーズを捉えながら地域の皆さんに役立つような仕事をしていきたいと考えている。

質 疑 計画的にボランティアを受け入れている中で、開所半年でのボランティアの受入状況はどうか。

応 答 この施設の準備段階から、ボランティアをさせていただきたいとの話もあり、受入状況は、個人10名と2団体が登録して活動をしてもらっている、特に団体の皆様は紙芝居など子供たちの生活を豊かにするための活動をしてもらっている。

質 疑 障害児入所施設のお子様について、地域の見取図を見ると、小学校、中学校、高校は歩いて通える距離である。特別支援学級等に通われている方は、通常ならば介護の事業所の車などを利用した送迎などがあるが、現在ここから地域の学校に通っている子供の対応はどうしているか。また、医療的ケアが必要な子供がいるようだが、現在どの程度の医療ケアを実施しているのか。

応 答 ここは三つの種別の異なる施設が入っており、児童心理治療施設部門に入所している子供たちは、中に併設された小中学校の分校に登校しており、障害児入所施設部門の子供たちは地域の学校に通い、小学校は2校、中学校は1校でそれぞれの特別支援学級に通っている。養護学校には平塚養護学校の小学部から高等部までそれぞれの年齢に応じて登校している、通学方法は、公用車2台、マイクロバス2台に分乗しながら登校時間に合わせ送り出している、ただ自立度の高い子供たちには単独で通学している子供も出てきており、能力に応じた対応を今後も

考えている。

医療的ケアとしては施設内に診療所がある。ここでは、常勤医として小児科医と精神科医が配置されており、それ以外に嘱託して非常勤職員として来てもらっているのは、耳鼻科、皮膚科、歯科などがいる。施設内の子供たちが日常的な健康管理ほか治療が必要な病気やけがを負ったときは、医師が診療行為を行う。また施設の特徴としては、虐待などの背景があり心のケアが必要な子供が多く、特に精神的な対応が必要な子供について、精神科薬を服用している子供が障害児入所施設部門には20名、児童心理施設部門には10名これまで精神科の病院に入所した子供が入所していて、障害児入所施設部門には1名、児童心理施設部門には2名いる。そして施設内の精神科医が子供たちを診るとともに、地域の医療機関との連携の中で、必要であれば入院治療するなど子供たちの健康管理を行っている。



(*) センター内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

子ども自立生活支援センターの新築工事の状況を現地調査することにより、決算特別委員会における議案審査の参考に資することができた。

〈参 考〉

- 1 随行者 砂村副主幹（議会局議事課）
大谷主任主事（議会局議事課）
片山主幹（会計局会計課）
早野主幹（企業局財務課）

- 2 調査箇所側出席者

- (1) 相模ダム

二見企業庁長、長谷川企業局長、池田相模川水系ダム管理事務所長、井上相模川ダム管理所長、酒井利水電気部長、影山利水課長、矢島財務課長、永吉企画調整担当課長、村越相模川水系ダム管理事務所ダム運用部長、野枝同工務部長、坂本同副所長、萩生田同施設課長、辻田同管理課長

- (2) 子ども自立生活支援センター

河合県民局長、丸山子どもみらい担当局長、小野会計管理者、二見会計局副局長、中田子ども自立生活支援センター所長、石渡次世代育成部長、浜田子ども家庭課長、柏木県民局経理担当課長、剣持子ども自立生活支援センター副所長、佐久間同支援部長、大河原住宅営繕事務所営繕設備部長、酒井県土整備局営繕計画部長、長川住宅営繕事務所電気設備課長、武内同機械設備課長、臼井同建築第一課長

